

板橋区本会議議事録（抜粋）

以下の議事録は、板橋区の議会議事録（2014.3.7：平成26年第1回定例会（第3日））をウェブサイトから取得し、祖のない世を抜粋したものです。

弁護士 小田川



○松崎いたる議員　ただいまより、日本共産党板橋区議団の代表質問を行います。
まず、国際平和への貢献についてです。

（中略）

最後に、区政の重大問題として、板橋区ホタル生態環境館に関する疑惑について、区長の見解をたずめます。

これまでホタル館では、ゲンジボタル、ヘイケボタル合わせておよそ2万匹のホタルが飼育され、夏の夜間特別公開では、一度に数千のホタルの成虫がおりなす光の乱舞を多くの区民が観賞するなど、区民に親しまれてきた施設でした。

しかし、板橋区が1月27日に行ったホタル生息調査では、実際に確認できたホタルの幼虫は2匹のみで、推定される全体の生息数も23匹と極めて少数であるとの調査結果が示されました。担当していた職員は、ホタル館担当の任を解かれ、異動を命じられ、業務を委託されていた事業者も「契約不履行」として区から契約を打ち切られています。

この調査結果が報告された2月19日の区民環境委員会では、「ホタルの成虫がほかから持ち込まれていた」という証言があったことも明らかにされました。これに対し、ホタル館の前担当職員は、マスコミの取材に対しては、「（ホタルの持ち込みは）あり得ぬ」と反論し、調査でホタルが発見できなかったのは「不適切な調査方法のためだ」と主張していますが、資源環境部に辞表を提出し、区側による聞き取り調査には応じていません。

区長は、さきの本会議で「驚いている」と答弁しましたが、驚いただけでは済まされない事態です。おおよそ2万匹と言われていたホタルが実際には数十匹であったという事態をどう説明するのが、まず問われています。

そこで伺いますが、ホタル生態環境館では、ホタルを実際には飼育していなかったのではありませんか。区長としての見解を明確にお答えください。

ホタル飼育の実態を解明する上で、前担当職員や受託事業者、ボランティアスタッフらの過去の行動の検証も必要になっています。前担当職員は、ボランティアとともに、全国のホタル再生事業、ホタル関連イベントに参加しています。「全国115か所でホタル再生を行い、失敗例はない」とみずから主張していますが、その一例がおとし2012年6月4日に、福島県いわき市で開催された「ふくしま復興ホタルプロジェクト」と称するイベントです。前担当職員は、ここでゲンジボタル300匹、ヘイケボタル400匹の幼虫を放流しています。当時、このイベントは主要全国新聞でも報道され、例えば朝日新聞では、「板橋のホタル福島に里帰り」と大きな見出しとともに紹介されています。この記事の中で前担当職員は、放流されたゲンジボタルは「福島県大熊町で採取した卵を23年間、累代飼育したものだ」と板橋区ホタル館で飼育しているホタルと全く同じ説明をしています。

しかし、このイベントには板橋区は後援も協力もしておらず、何ら関わっていません。だとすると、このホタルはどこから持ってきたものなのでしょうか。区に無断でホタル館から持ち出したとしたら、大問題です。それとも、ホタル館とは別のホタルの入手先、入手ルートがあるのでしょうか。検証が必要です。

そこで改めて確認しますが、2012年6月にいわき市で開催されたホタル交流イベントに、板橋区がホタルの幼虫を提供した事実がありますか。お答えください。

前担当職員は、その著書やブログなどで、ホタル生態環境館では全国23か所のホタルを預かり、遺伝子が交雑しないように、飼育しているなど書いています。このいわき市で放流したヘイケボタルについては、今から23年前にいわき市で採取した卵を板橋のホタル館で累代飼育してきたものと著書の中で説明しています。この主張のとおりなら、ホタル館ではこれまで言われてきたとおりの栃木県旧栗山町由来のヘイケボタルといわき市由来のヘイケボタルという2種類が交雑しないように飼育されてきたこととなります。

このほか、2012年3月には、鎌倉の鶴岡八幡宮の神池にゲンジボタルの幼虫300匹をボランティアスタッフとともに放流していますが、このホタルも前担当職員が、鎌倉のホタルの卵を板橋のホタル館で預かり、育てた幼虫を放流したと地元紙で報道されています。

ホタルを飼育する水槽が6つしかない板橋区のホタル館で、遺伝子がそれぞれ違う23地域のゲンジボタル、2地域のヘイケボタルを同時に、交雑しないように飼育できる

のでしょうか。前担当職員の説明は極めて疑問です。

区では、全国23か所の別々のホタルを飼育していたという説明を事実と認めているのですか。あのホタル館で本当にそんなことができるのかお答えください。

ホタル館に関する疑惑は、ホタル飼育に関することだけではありません。数々の営利行為や商品販売が、「板橋区ホタル生態環境館との共同開発」と広告され、「ホタル館館長」「ホタル博士」の肩書とともに前担当職員の名前を冠して行われています。

その中には、さきの補正予算総括質疑で示されたような「ナノ純銀が放射線をエネルギーに変える」などとしたナノ純銀簡易飲料ろ過セットなど、科学的根拠がでたらめな、いかがわしい商品も含まれています。また、全国各地でホタルの住む人工せせらぎがつくられる場合でも、前担当職員の名前がセールスに利用されています。

さらに、ホタル館では、ホタルとの共生関係があるからと区から飼育が許可されていたクロマルハナバチが、受粉用して農家に販売され、その広告チラシには「飼育・開発板橋区ホタル生態環境館」と明記されています。こうした商品は、板橋区という自治体の信用を利用して売られています。それを信じて購入する人も少なくないはずです。板橋区ホタル館を看板、広告に使った商品や事業は、板橋区とは無関係であることを区の広報やホームページなどで区民に周知すべきではありませんか。

これからの営利行為には、ホタル館にボランティアスタッフとして出入りしている複数の人物が関与していることが考えられます。特にクロマルハナバチの販売については、区民環境委員会でも多額の金銭がボランティア名義の銀行口座に振り込まれていたと報告されています。ホタル館に出入りするボランティア、団体、営利企業との関係を、その名前も含めて明らかにしていただきたいが、いかがですか。

ホタル館にまつわる疑惑は、残念ながら、以上に尽きるわけではありません。板橋のホタルの光が映す影は、広く深い闇となっています。多くの区民がホタル館の存続とホタルとのふれあい、ホタルが飛び交うような板橋の環境の再生を望んでいます。その区民の期待や願いを裏切ることは許されません。区長のもとでの徹底調査を求めるとともに、区議会としても区民の期待に応えるため、疑惑の徹底究明をすることを訴え、日本共産党の代表質問を終わります。

(中略)

○区長(坂本 健君) それでは、松崎いたる議員の代表質問にお答えいたします。

最初に、ヘイトスピーチについてのご質問でございます。

(中略)

次は、ホタルの飼育についてのご質問であります。

ホタルの飼育につきましては、夏のホタル特別公開などの時にホタルの卵を採取し、その後、幼虫として飼育、翌年の夏に羽化させてきたと担当職員から説明を受けております。今回、ホタル等生息実態調査を実施したところ、ゲンジボタルの幼虫が推定で23匹と極端に少ない状況でございました。このことにつきましては、現在、飼育担当職員本人からの聞き取りも含めて調査をしているところであります。

次に、福島県いわき市でのホタル放流についてのご質問であります。

福島県いわき市でのホタル放流につきましては、板橋区としての正式な依頼は受けてございません。また、ホタル生態環境館の担当者に確認をしましたが、板橋区のホタルを福島県いわき市に提供した事実はないとのことでした。

次は、全国のホタルを預かり、飼育をしていたことについてのご質問であります。

板橋区ホタル生態環境館は、他自治体や団体のホタルの幼虫を預かり、その方たちに代わって飼育する施設ではございません。

次に、ホタル生態環境館が関わったかのごとく販売されている商品等についてのご質問であります。

板橋区ホタル生態環境館の運営目的は、ホタルとのふれあい体験を通して、生態系や生物多様性の大切さを理解し、区民の環境意識の向上に寄与することであり、いわき市へのホタルの放流や商品の開発、販売施設ではございません。商品販売など、これまで担当職員の個人的な活動が誤解を与えるケースがございまして、そのたびに注意を行ってまいりました。今回、このような事例が起こったことにつきましては大変残念であり、区とは無関係であることを区のホームページなどでお知らせをしているところであります。

最後のご質問であります。クロマルハナバチの販売についてのご質問であります。

クロマルハナバチの販売先として、書類等で確認できたものは、石川県能登町の財団法人能登町ふれあい公社でございます。まず、イノリー企画というボランティアの人たちがホタル生態環境館において女王蜂を交尾させ、その交尾を終えた女王蜂をふれあい公社に販売をするものであります。公社は、仕入れた女王蜂に働き蜂を生まれ、女王蜂とその働き蜂を小泉製麻株式会社が仕入れ、農家に販売をしたものであります。

ちょうだいをしました質問に対する答弁は以上でございます。